

今度明樽商賣之儀、古來致來候者共相願候ニ付吟味之上、貳拾人之者共明樽問屋申付候間、自今ハ外商賣有之者共、附商賣致間敷候、尤明樽商賣望之者ハ、右貳拾人之者共江相對之上にて、明樽商賣可致候、

十二月

樽買

〔守貞漫稿生六業〕樽買

酒醬油等ノ空樽ヲ專トス、故ニ樽買ト云、空筥櫃ヲモ買之、毎日枴ト錢トヲ携出テ、タルハゴザイタルハゴザイト云巡ル、買集テ、明樽問屋ニ賣ル問屋ヨリ醬油ハ製造ノ家ニ賣リ、酒樽明櫃等ハ其便ニ應テ賣之、

樽雜載

〔宣胤卿記〕文龜四年元正閏三月四日乙未、今日室町殿宰相中將爲東庭花御覽御參内直御參御

極十荷、折十合御持參、於小御所有一獻略下

〔長祿二年以來申次記〕二月朔日

一白鳥一 一熨斗千本一打 一御樽天野五荷 以上進上 畠山殿每年式日にて如斯也

〔童蒙酒造記〕新樽之事

一熊野木取は木香強し、故に湯ふりして、又水ふりして、扱水氣を乾かせ酒を詰べし、又すほん樽は木香弱し、依之其儘詰べし、

呑口木の事

一杉の口木は其儘遣ふ、弱さわか樽口木は湯にて煮てほして遣ふべし、苦みを去る爲也、

〔諸商人世帶氣質〕目薬貝より涌て出る泉の酒壺

兎角は與三郎を頼み取てもらへと、禮いひて二升三升或は四升五升取に來る程に、造り株持て居る大酒屋より、通樽多く集り、毎日二三石づ、の商ひ略下